

# 千葉労働運動

94.4.22 No. 3984

## アメリカ・日本の朝鮮侵略戦争絶対反対

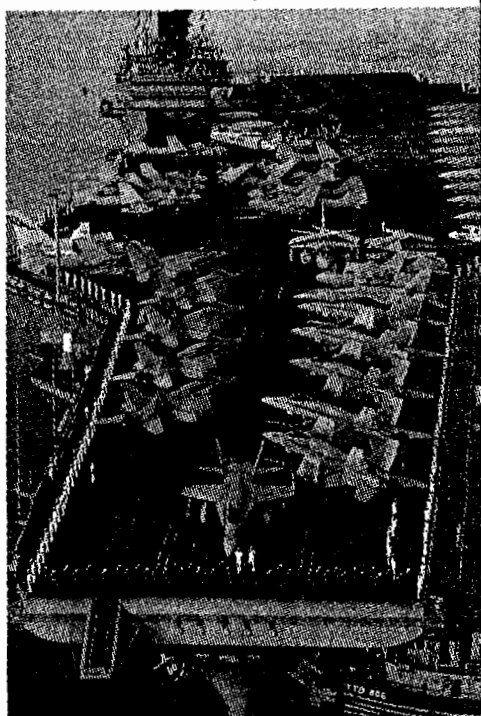
### 一発の爆撃も一人の犠牲も 許してはならない

1945 日本労働者を奮  
い立たせた在日労連

アメリカの北朝鮮に対する「核査察」を口実とする戦争挑発が完全に一線をこえて重大な局面に直面している。こうした動きの中日本は「湾岸戦争のような遅れをとるな」「敵の発射原または発射基地に対する攻撃を」(小沢)と言いなし、核武装と侵略戦争に乗り出すことを公然と宣言している。次期首相といわれている羽田は、「有事立法を早急につくれ」(四月十八日)とまで言い切っている。

小沢による反動政権づくりを許さず朝鮮侵略絶対反対の声、行動をただちに巻き起こそう。戦争につながる一切の政策・攻撃をゆるしてはならない。すでに沖縄では連日の激しい実践訓練が原因で、米軍機の墜落事故があいつぎ、厚木でも戦闘機の超低空飛行訓練があいつぎ、横須賀基地には空母インディペンデンスなど戦艦十五隻が集結し配置されている。しかも、他方では「北朝鮮の脅威」を扇動し、在日朝鮮人やアジア人への排除・排斥、排外主義をえ、一九五〇年の朝鮮戦争の過

### 横須賀基地には米艦の 航空母艦が配置!



米軍は米韓合同演習チームスピリットの再開を決定した(写真は空母機動部隊)

敗戦直後の一九四五年十月七日、北海道の夕張と常磐の炭鉱で朝鮮人労働者がストライキに立ち上った。さらにその火は九州の三池や栃木の足尾銅山では中国人捕虜が決起。それは、敗戦と危機に直面した日本帝国主義に対する命がけの最初の大衆的反撃であり、この決起は絶望と悲惨にくれていた日本の労働者に限らない勇気と衝撃を与え、労働運動結成へと大きく踏み込みながら、その波は全国をりようどうしていったのである。

つまり、朝鮮・中国人民の闘いによって日本の労働者は覚醒され、ふるいたたされたのである。この力は、アメリカ帝国主義、支配階級を心底恐怖させたのはいまでもない。

### 弾圧と排外主義 に屈した時戦争は

中国革命の勝利が決定的となり、帝国主義のアジア支配が危機に直面して行く中で帝国主義は朝鮮戦争をもつて危機突破を図る攻撃に転じてきた。攻撃はまず最初に在日朝鮮人運動にたいする弾圧と公務員労働者から

を通じての戦争準備への突入であった。なかでも特徴的なことは、少しでも在日朝鮮人の運動が爆発しかけるや、日本人のなかにある民族的偏見、排外主義をおおりのたてつつ、他方では徹底した血の弾圧を加え分断と弾圧を加えつつ闘いを圧殺し戦争へ準備していった。つまり日本の労働者はここでも決起することなく敗北し戦争への道をゆるしてしまつたのだ。

### 1950の53 朝鮮戦争

### 闘う団結の強化と大衆的決起

五十年に入るやアメリカは、沖縄と日本国内の米軍基地の強化を指示。一方では六月二日に東京都内の集会、デモを全面禁止し、六日には日本共産党二十四人の公職追放を行いレッドパージへと踏み込み、それをキッカケに一挙に全国を戒厳令状態に陥れ、つと同時に占領軍の介入とテ入力で「反共」民間を中心にした評が結成されていった。「国連軍の行動指示」の立場を明確にしてである。

労働者大衆の中には闘う力もちなながらも、それを組織し、大衆的決起を創りだしていく指導が放棄されるなかで、戦争への道を阻止できず多くの朝鮮人民を虐殺してしまつた歴史を断じて繰り返してはならない。弾圧と組織破壊をはね返し、闘う労働者の団結をつよめよう。

### 戦争と弾圧、 労働運動 破壊は表裏一体



在日朝鮮人労働者連盟中央本部